# 異文化と心通わせ

つくば通信 ⑬

村田　佳子

## 彼女がモテる理由

「先生、もう踊ってもいいですか？」

病室で外国人患者と日本人医師の間の会話を訳すことがありますが、ベッドに寝ている患者から医師へこんな質問があったのは初めてでした。

キューバから稲作を研究するために5カ月間の日程で来日した女性、サンドラさん。帰国まであと1カ月余りという時期にひどい腹痛と嘔吐のため連絡があり病院へ急ぎました。診断の結果は虫垂炎。精査を行った後、すぐに手術をすることになりました。日本の医療は進んでいるとはいえ、彼女にとってここは外国です。手術や入院は心細かったはず。そんな中、退院前、病室へ回診に来た医師にした質問がこれ。他の人なら、「いつ退院できますか」「いつから仕事に行けますか？」と聞きそうな場面です。これには医師も、看護師の皆さんも笑いました。幸い術後は順調に回復し、研修に復帰。9月末には予定通り帰国の途に就きました。

サルサの本場から来日した彼女はダンスが得意で、音を聞けば体が動いてしまうのです。病院で彼女と歩いていた時には、彼女の足の長さ、スタイルのよさに驚いた年配の女性がため息をもらしながら「きれいね～！」と感嘆しました。年齢性別問わず、彼女はモテていました。日本人スタッフにもファンが多く、彼女の周りにはいつも人が集まっていました。

彼女の入院の間、一緒にいる時間が多かったのでその「モテる」理由を探るべく観察してみました。

彼女はいつも笑顔で人の話をよ～く聞きます。相手の目をみて、「うんうん」とうなずき、話の最後まで耳を傾けます。そして思っていることをできるだけ自分の言葉で伝えようとします。笑顔は、相手を受け入れているというサインでしょう。とても話しやすい雰囲気です。そして来日中、研修は彼女の母国語であるスペイン語が共通語として使われていたのですが積極的に英語を学ぶべく周りの人ともできるだけ英語を使って会話し躊躇（ちゅうちょ）しませんでした。伝えたいことの英単語を「う～ん…」と探しながら、一生懸命気持ちを届けようとする姿は誠実さが伝わりました。大好きなものや楽しかった思い出を話すときは表情や身振りから気持ちがあふれ出るのです。

病気や困ったことが起きた時に人の性格は顕著に出るように思います。急に手術と言われたときの彼女は一瞬、戸惑ったもののすぐに状況を受け入れ、やはり笑顔で「オッケー」。にっこりして病気の専門家である医師にすべてを託しました。自分ではどうしようもない時、素直に人を頼るということはきっといろんな場面で大切と、教えてもらいました。

帰国前、彼女は私のところにおしゃべりにやってきて、Tシャツの裾をちらっとめくり、手術の痕（あと）がよくなったことを見せに来ました。そして言いました。「この痕のおかげで毎日シャワーを浴びるとき、日本のことを思い出せる」とにっこり。とてもチャーミングな人です。前向きでユーモアのある彼女は、周りの人を楽しい気持ちにします。モテるとはまた会いたくなる人のことのようです。

「しあわせなら手をたたこう」で「ほっぺたたこ！」と歌うサンドラさん

（鶴岡市出身、JICA筑波国際センター・クリニック　コーディネーター）